

「熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行」特記仕様書

本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行対象案件である。

熱中症対策に資する現場管理費の補正を希望する場合は、「熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行」実施要領に基づき行うものとする。

実施要領は、新潟県ホームページから入手できる。
(<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/gijutsu/1356921460600.html>)

「週休2日取得モデル工事」特記仕様書

本工事は、上越市「週休2日取得モデル工事」の試行対象案件である。

受注者は、受注後速やかに「週休2日取得モデル工事」希望の有無について、打合せ簿により監督員と協議を行うものとする。

協議により試行する場合は、『「週休2日取得モデル工事」試行実施要領』に基づき行うものとする。

工事特記仕様書

- 1 特記仕様書
この仕様書は、「上越市公共下水道工事標準仕様書」及び「上越市埋戻しに使用する材料の標準仕様書」に定める特記仕様とし、この仕様書に記載されていない事項は前記仕様書による。
- 2 対象工事
工事番号 公雨第2-2号
工事名 本城町排水区雨水幹線368路線工事
施工地名 上越市北城町1丁目地内
- 3 工事現場の照査及び施工計画書
実施設計書に基づき現場を照査し、その結果を監督員の確認を得るとともに、施工計画書を作成し現地着手前に提出し監督員の確認を得ること。
また、この内容に変更が生じた場合は変更施工計画書を提出し監督員の確認を得ること。
- 4 交通規制及び地元対策
現地着手にあたり警察等関係機関と十分協議し、その計画書（交通規制図等）を提出し監督員の確認を得ること。
工事期間中は、地元代表者（町内会長等）と連絡を密にするとともに、作業工程等に変更が生じた場合は、監督員と協議し速やかに地元代表者に連絡すること。
当該工事が完了したら、地元代表者に報告すること。また、側溝清掃等の必要があれば立会を求め地元代表者に了解を得ること。
- 5 工事写真
上越市下水道工事標準仕様書に基づき撮影し、竣工写真と工事写真を提出すること。
- 6 地形地質調査
必要に応じて詳細な調査を行い、これらの結果を設計図書の資料とあわせて検討し支障のないよう施工しなければならない。
- 7 用排水路・橋梁等の構造物調査
工事区間内における用排水路・橋梁等の構造物について、設計図書の確認とあわせ、道路管理者、道路占用件管理者、地元関係者（町内会長等）から資料収集を行い、基礎形状の把握に努めること。
用排水路・橋梁等の構造物の位置や幅、深さ、基礎形状が把握できず、下水道管渠の施工に支障があると判断される場合は、監督員と協議の上、必要に応じて試掘調査を実施すること。
用排水路等の暗渠については、必ず目視で確認すること。
- 8 地下埋設物調査
当該工事において、NTT・東北電力・ガス水道等の地下埋設物管理者と十分協議し、支障にならないよう施工しなければならない。
鋼矢板等の打ち込みを行う場合は、地下埋設物管理者の立会を求め試験堀を行うこと。
- 9 使用二次製品について
人孔鉄蓋（除雪車対策型）・人孔用側塊・足掛金物は、上越市の仕様による。
- 10 産業廃棄物受入伝票について
廃材数量確認については、請負者が作成したマニフェストの集計表及び請負者保管のマニフェスト原本を提示し確認を得ること。
- 11 環境対策について
工事の施工に際し、地球の環境保全を図るため環境に配慮するとともに、環境負荷の低減に努めること。当工事は排出ガス対策型機械の使用を設計に計上しているため、工事写真で使用の確認ができるようにすること。（機械の全景、ステッカーのアップ写真）また、低騒音、低振動にも努めること。
- 12 品質管理基準について
表層工、上層路盤工、下層路盤工、歩道表層工、歩道路盤工における現場密度測定の実験基準は、別紙「品質管理基準及び規格値」とおりである。
- 13 繰越について
本工事の工事日数は、260日として積算している。
やむを得ず、令和3年3月31日までに工事を完了させることができない場合は、双方協議の上、繰越手続きを行うことができる。
繰越手続きを行った場合、工事日数から令和3年3月31日までの工事实施日数を減じた日数以内を、変更契約により付与することができるものとする。
- 14 その他
当該工事の工事期間については、警察署及び道路管理者並びに関係機関との協議の結果、下水道工事並びに関連するガス水道工事を含め道路使用期間が定められているので下水道建設課の指示にしたがうこと。
停止線がある道路の工事については、舗装復旧完了後速やかにそれを復旧すること。
工事車両の駐車場及び重機の配置を施工計画書に記載すること。
地元に配慮し、トラブルが起きないように努め、早期完了を図ること。
工事を施工する上で必要と思われる調査等は、積極的に迅速かつ的確に行うこと。
近接工事と十分な調整を行い、早期完了を図ること。
関係機関と十分な調整を行い、トラブル、手戻りのない施工を行うこと。
再生材（RC-40・ARC-40）の使用は、下層路盤及び道路構造物の基礎材のみとし、それ以外の基礎材（管基礎等）は、すべて新材を使用すること。

品質管理基準及び規格値

工種	規格値			試験基準	摘要
下層路盤工	最大乾燥密度の93%以上			<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個(10孔)で測定する。</p>	
	A	X ₁₀	95%以上		
	B	X ₆	96%以上		
	C	X ₃	97%以上		
上層路盤工	最大乾燥密度の93%以上			<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個(10孔)で測定する。</p>	
	A	X ₁₀	95%以上		
	B	X ₆	95.5%以上		
	C	X ₃	96.5%以上		
表層工	基準密度の94%以上			<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個(10孔)で測定する。</p>	<p>・橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。</p>
	A	X ₁₀	96%以上		
	B	X ₆	96%以上		
	C	X ₃	96.5%以上		
歩道路盤工	最大乾燥密度の85(93)%以上			<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の85(93)%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個(10孔)で測定する。</p>	<p>()書きは車道と同等の締固め度・・・大型車両が頻繁に走行する場合等に適用する。</p>
	A	X ₁₀	85(93)%以上		
	B	X ₆	85(93)%以上		
	C	X ₃	85(93)%以上		
歩道表層工	基準密度の90(94)%以上			<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の90(94)%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個(10孔)で測定する。</p>	<p>()書きは車道と同等の締固め度・・・大型車両が頻繁に走行する場合等に適用する。</p> <p>・橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。</p>
	A	X ₁₀	90(94)%以上		
	B	X ₆	90(94)%以上		
	C	X ₃	90(94)%以上		

※歩道路盤工及び歩道表層工の()書きの規格値は監督員と協議を行い使用する。

※【B X₆】の規格値は、【C X₃】の規格値が得られない場合に監督員と協議を行い使用する。

※なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合は、1工事あたり3個(3孔)以上で測定する。

再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン特記仕様書

建設工事に伴い発生する建設廃材を破砕または混合して、製造する再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン（以下「再生クラッシャーラン等」という。）の性状について、次のとおり規定する。

なお、再生クラッシャーランを構造物の基礎材等として使用する場合についてもこの定めによる。

1. 材料

1-1

①再生クラッシャーラン（RC-40）

セメントコンクリート廃材から製造した再生骨材および路盤再生骨材（路盤発生材を必要に応じて破砕、分級して製造した骨材）を単独または相互に組み合わせ、必要に応じてこれに補足材を加えて、所要の品質が得られるように調整した材料をいう。

②アスファルト再生クラッシャーラン（ARC-40）

再生クラッシャーラン（RC-40）もしくはクラッシャーラン（C-40）を母材とし、グリズリアンダー材を混合したものをいう。アスファルト再生クラッシャーランには、再生クラッシャーラン（RC-40）を母材とする「RC混合」とクラッシャーラン（C-40）を母材とする「C混合」がある。

1-2

再生クラッシャーラン等は、ゴミ、泥、有機物、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器、レンガ、瓦等を有害量含んではならない。

1-3

再生クラッシャーラン等の最大粒径については、最大40mmと定める。

2. 品質

再生クラッシャーラン等の品質規格ならびに品質管理については、新材のクラッシャーランに準じるものとする。

2-1（品質）

路盤材に使用する再生クラッシャーラン等の修正CBR、塑性指数、グリズリアンダー材の混入率は次表を標準とし、舗装の構造設計に用いる等値換算係数（下層路盤）は0.25とする。

材 料	修正CBR	PI	グリズリアンダー材の
		(塑性指数)	混入率
再生クラッシャーラン	30%以上	6以下	—
アスファルト再生クラッシャーラン	40%以上	6以下	質量配合40%以下

[注]

(1) 再生クラッシャーラン等に用いるセメントコンクリート再生骨材は、すりへり減量が50%以下でなければならない。試験方法はロサンゼルスすりへり減量試験（粒度は道路用碎石S-13（13～5mm）のもの）とする。

(2) 再生クラッシャーラン等の材料として路盤再生骨材もしくは路盤発生材を用いる場合のみPIの規定を適用する。

2-2（粒度範囲）

再生クラッシャーラン等の粒度は〔JIS A 5001〕道路用碎石の規定に準じ、粒度範囲は次表による。

粒度の範囲		RC-40 (40~0)	ARC-40 (40~0)
ふるい目 (mm)			
通過 質量 百分 率 (%)	53.00	100	100
	37.50	95~100	95~100
	31.50	—	—
	26.50	—	—
	19.00	50~80	50~80
	13.20	—	—
	4.75	15~40	15~40
2.36	5~25	5~25	

[注] 粒度は、モルタル粒などを含んだ解砕されたままの見かけの骨材粒度を使用する。

建設副産物関係

1. 再生材の利用

工事受注者は、下記の資材の使用に際し、再生材を利用するものとする。

再生材名	規格	使用箇所	備考
クラッシャーラン	40-0	排水構造物基礎、埋戻し	施工現場から40Km以内の再資源化施設
アスファルト		表層	施工現場から40Km、及び運搬時間が1.5時間の範囲内の再資源化施設
改良土	40-0, 20-0	管基礎・埋戻し・路床	上越市内のプラント製造の改良土

*建設発生土（全量）は改良土を購入するプラントへ搬出すること。

*セメント系改良土を使用する場合は、『セメント及びセメント系固固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）』に基づき原位置で施工後の試験を行うこと。

2. 建設発生土の利用

(1)盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用するものとする。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備考
無し				

3. 建設発生土の搬出

(1)工事の施工により発生する建設発生土処理は、下記により積算している。

搬出先	プラント		
搬出先地名			
連絡先			
設計運搬距離	L=5.1km		
受入時間			
受入費用	2,700円/m ³		
備考			

建設発生土改良土プラントへ土砂を運搬処理する場合、上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

4. 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記により積算している。

搬出する廃棄物名	アスファルト殻	コンクリート殻	コンクリート殻	コンクリート殻	
設計運搬距離	L=7.4km	L=7.4km	L=6.4km	L=6.4km	
受入時間					
受入費用	1,200円/t	4,700円/m ³	8,750円/m ³	8,750円/m ³	
備考		(無筋・機械)	(二次製品・機械)	(二次製品・人力)	

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と請負者の提示する施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5. 再生資源利用計画書の必要の有無

(有)

6. 再生資源利用促進計画書の必要の有無

(有)

7. 特定建設資材廃棄物の処理について

特定建設資材廃棄物（コンクリート・アスファルト・木材）は適正に処理し、資材の再資源化に努めること。

8. 自ら産業廃棄物を運搬処分する以外は、建設廃棄物処理委託契約書の写しを提出すること。

9. 産業廃棄物が搬出される工事にあつては、マニフェストにより適正に処理されていることを確認するとともに監督員に提示すること。

10. 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定によりがたい場合は、速やかに発注者に報告し、協議すること。

薬剤使用工事の検収の注意事項

下水道工事において、薬剤（地盤改良工・推進工作泥材・滑材・裏込材等）を使用する場合は、下記の通り検収するものとする。

1. 納入時検収

- ・荷台検収は、認めない。
- ・監督員により、納入伝票と納入数量を照合し検収を受け、写真撮影を行い保管する。
- ・納入物品については、空袋検収時に判別しやすいように着色又は検印を受け、使用後は丁寧に保存する。
- ・タンクローリーによる納入は、出荷時の重量検収が主となるが、現場到着時にタンク内や搬入状況が確認できるよう配慮すること。（積載重量オーバーには、十分注意すること。）
- ・袋物の場合、中身と外袋の表示の異なる物は検収しない。（例：バラ物を飼料袋等に移し変えたもの。）

2. 作業時検収

- ・許可なくチャート紙は切断しないこと。
- ・使用するチャート紙は、前日に監督員の検収を受けること。
- ・提出するチャートには、請負業者・現場代理人と注入工事責任者の署名、押印をすること。
- ・事前にチャート保管用ファイルと注入日報綴りを監督員へ提出すること。

3. ロッド俵尺

- ・元請業者は、全数を確認すること。
- ・発注者は、必要に応じ検査に出向く。（孔Noは指定しない。）

4. フェノール反応

- ・必要に応じ監督員の指示箇所で行う。

5. 空袋（缶）検収

- ・空袋（缶）検収時までには納入検収時の写真を用意する。比較して相違ない場合は、数量確認の上写真撮影する。
- ・空袋については、監督員の指示により焼却処分とする。

6. その他

- ・セメント系使用の場合、『セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）』より試験を行う。

騒音・振動対策に関する特記仕様書

1. 目的

本仕様書は建設工事に伴う、騒音、振動の発生をできる限り、防止することにより、生活環境の保全と円滑な工事の施工を図ることを目的とする。

2. 適用

本工事箇所は、騒音、振動を防止することにより、住民の生活環境を保全する必要があると認められる区域に該当するので、施工計画書で騒音、振動対策を明記すること。

3. 遵守する法令

騒音、振動対策の施工にあたっては、騒音規制法、振動規制法及び新潟県生活環境の保全等に関する条例等を十分理解しておくこと。

4. 対策の主な基本事項

1) 騒音、振動対策については、騒音、振動の大きさを下げるほか、発生期間を短縮するなど全体的に影響の小さくなるように次の事項について検討すること。

- (1) 低騒音、低振動の施工法の選択
- (2) 低騒音型建設機械の選択
- (3) 作業時間帯、作業方法の設定
- (4) 騒音、振動源となる建設機械、設備の配置

2) 建設機械の運転については以下に示す配慮をすること。

- (1) 現場管理等に留意し、不必要な騒音、振動を発生させない。
- (2) 建設機械等は、整備不良による騒音、振動が発生しないように点検、整備を行う。
- (3) 作業待ち時には、建設機械等のエンジンをできる限り止め、不必要な騒音、振動を発生させない。

5. 対策の具体的事項

1) 土工（掘削、積込み作業）

- (1) 掘削、積込み及び締固め作業は、低騒音型建設機械の使用を原則とする。
- (2) 掘削（舗装版等）は衝撃力による施工を避け、無理な負荷をかけないよう丁寧に運転する。

2) 土留工・構造物取り壊し工は、騒音、振動に関して苦情の多い工種であるので、十分配慮する。

特に取り壊しにおいて、小割を必要とする場合は騒音、振動の影響の少ない場所で小割する方法を検討する。

3) 覆工板（路面覆工）の取り付けでは、段差、通行車両による、がたつき、跳ね上がり等による安全対策はもちろん、騒音、振動の防止にも留意する。

4) 空気圧縮機・発動発電機は低騒音型建設機械の使用を原則とする。

6. 特定建設作業の届出

現場代理人は特定建設作業の届出をする場合、騒音規制、振動規制法の14条第1項の規定により、特定建設作業開始の日の7日前までに届出した「特定建設作業実施届出書」の写しを監督員に速やかに提出すること。

特定建設作業の種類および規制基準

特定建設作業の種類		騒音・振動の大きさ	作業時間帯	作業禁止	実施届出
騒音関係係	くい打機（もんけんを除く）、くい抜機又はくい打くい抜機（圧入式くい打くい抜機を除く）を使用する作業（くい打機をアースオーガーと併用する作業、セメントミルク工法を除く）	85dB	上越市では8:00～17:00を作業時間帯として指導している。	日曜日及びその他の休日	7日前までに届出
	びょう打機を使用する作業				
	さく岩機を使用する作業（連続的に移動する作業にあつては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る）ハンドブレイカー（空気圧、電動）、油圧式、打撃のみを行うブレイカーも該当。				
	空気圧縮機（電動機以外の原動機を用いるのものであつて、原動機の定格出力が15kw以上のものに限る）を使用する作業（さく岩機の動力源として使用する作業を除く）				
	コンクリートプラント（混練機の混練容量が0.45m ³ 以上のものに限る）又はアスファルトプラント（混練機の混練重量が200kg以上のものに限る）を設けて行う作業				
	バックホウ（低騒音型として環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が80kw以上のものに限る）を使用する作業				
	トラクターショベル（低騒音型として環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が70kw以上のものに限る）を使用する作業				
	ブルドーザー（低騒音型として環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が40kw以上のものに限る）を使用する作業				
	コンクリートカッターを使用する作業（連続的に移動する作業にあつては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る）				
	振動関係係				くい打機、くい抜機又はくい打くい抜機を使用する作業（もんけん、圧入式くい打くい抜機及びセメントミルク工法を除く。振動パイロドライバ、バイブロハンマーは該当。くい打機をアースオーガーと併用する作業も該当）
鋼球を使用して建築物その他の工作物を破壊する作業					
舗装版破碎機を使用する作業					
ブレイカー（手持式のもの除く）を使用する作業（連続的に移動する作業にあつては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る）					
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音の大きさは、作業の場所の敷地の境界線における値。 ・振動の大きさは、作業の場所の敷地の境界線における値。 					

請負工事指定事項総括表

(A):指定 (B):一部指定 (C):任意

項 目	指 定 事 項		備 考
	当 初	変 更	
工 法 の 指 定	1. 開削工法 (C)		
仮 設 工 事 の 指 定	1. 立抗土留工 (A) <ul style="list-style-type: none"> ・鋼矢板Ⅲ型 L=7.0m、 ・鋼矢板Ⅳ型 L=13.0m、 2. 地盤改良工 (B) <ul style="list-style-type: none"> ・薬液注入工 二重管スレーフ工法 複相式 ・スラリー攪拌工法 3. 開削水替え工 (C) <ul style="list-style-type: none"> ・水中ポンプ 		
施 工 の 立 会 検 査 又 は 記 録 の 整 備	1. 上越市下水道工事標準仕様書に記載されている事項。 2. 地盤改良工については、薬剤仕様工事の検収の注意事項による。		
部 分 払 の 対 象 と し な い 事 項			
施 工 条 件 の 基 準	1. 特記仕様書 2. 新潟県土木工事標準仕様書		
そ の 他	1. 産業廃棄物は「廃棄物の処理に関する法律」によって適正に処理すること。		

施工条件総括表

下記項目、事項のうち○印欄は、工事施工にあたって制約等をうけることになるので明示する。
 なお、明示事項に変更が生じた場合明示されていない制約等が発生したときは、監督員と協議し、適切な措置をこ
 ずるものとする。

明示項目	施 工 条 件
Ⅰ 工程関係	① 関連する別途工事あり 工事名： 公雨第31-2号 本城町排水区仮設水路設置工事 予定期間： 11月以降 上記工事で施工した仮設水路を引継ぐ 施工時期等について調整を図ること
	② 施工時期、時間、方法の制限あり 時期： 11月～5月（河川区域の施工については左記期間内に完了すること） 時間： 方法：
	③ 関係機関協議による工程条件あり 協議内容： 河川占用協議 完了予定時期： 令和2年11月までに河川占用許可を受ける見込み
	④ その他 近接する工事が発注された場合、その工事との工程調整を図ること。
Ⅱ 用地関係	1 工事用地等の未処理部分あり 処理見込時期： 区間：
	2 仮設ヤードの指定あり 場所： 期間：
	③ その他 当該工事は高田河川国道事務所所管の一級河川 関川の河川区域内の施工を見込んでいる。 河川占用許可条件に従って作業を実施すること。
Ⅲ 公害対策関係	1 公害防止の制限あり（騒音・振動、排出ガス、粉じん、水質等） 施工方法： 作業時間：
	② 家屋等の調査の必要性あり 方法： 施工前に地権者の了解を得て家屋調査することを見込んでいる 範囲： 隣接する木造住宅1軒
	③ その他 別紙「騒音、振動対策に関する特記仕様書」のとおり。
Ⅳ 安全対策関係	① 交通安全施設等の指定あり 交通誘導警備員B：2名配置（交代要員なし） ※ 交通誘導等については、道路使用許可申請書を提出する前に監督員の確認を 受けること。 その他施設等：
	2 近接作業制限あり（鉄道、ガス、水道、電気、電話等） 内容： 工法制限： 作業時間制限：
	3 発破作業あり 保安設備及び保安要員 防護工： 作業時間制限：

IV 安全対策関係	4 防護施設 (落石、雪崩、土砂崩落等) 内容：
	⑤ その他 交通誘導員については、警察等関係機関との協議により交通処理方法等の変更が生じた場合や現地の状況により、これによりがたい場合は監督員と協議すること。
V 工事用道路関係	1 一般道を搬入路としての制限あり 搬入経路： 期間： 使用後の措置：
	2 一般道路の占有 期間： 規制条件： 時間制限：
	3 仮設道路設置 工法指定の有無： 用地関係：
VI 仮設備関係	1 仮設備の指定あり
	2 仮設備の条件指定あり
	③ 仮設備の転用、兼用あり 工種： 仮設水路一式（鋼矢板、切梁・腹起し） 内容： 別途発注済の公雨第31-2号本城町排水区仮設水路設置工事で設置する仮排水路を引継ぐ。仮設材の損料単価は全体工程を考慮して180日以内で積算計上しており、整備費については当該工事にて対応する。また上流端の鋼矢板N=13枚については、次年度以降の工事への引継ぎを予定している。
	4 イメージアップあり 内容：
	5 その他
VII 残土・産業廃棄物関係	別紙「建設副産物特記仕様書」のとおり 一次施工で既設構造物撤去後の埋戻しについては、31-2工事で下水道センターに仮置きした残土を活用する。搬入経路や時期、具体的な搬入場所の詳細については、監督員と協議すること。
VIII 工事支障物件等	1 占有支障物件あり (電気、電話、水道、ガス等) 内容： 時期：管理者との協議による。
	2 占有物件重複施工あり 内容：

VIII 工事支障 物件等	③ その他 支障物については、関係機関と十分な協議、調整を行い施工にあたること。				
IX 排水工 (濁水処理 含む)	1 濁水。湧水処理の特別な対策あり 内容：				
X 薬液注入関係	① 薬液注入工法あり 別紙条件明示による				
XI その他	1 現場発生材あり 品名： 納入場所：				
	2 支給品および貸与品あり 品名： 引渡し場所：				
	3 その他				
XII 排出ガス対策 型建設機械	<p>① 本工事において以下に示す施工機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」に基づく技術基準に適合する特定特殊自動車、または「排出ガス対策型建設機械指定要領」、「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程」もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用するものとする。</p> <p>なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することで、排出ガス対策建設機械と同等とみなすものとする。ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。</p> <p>排出ガス対策型建設機械あるいは、排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い提出するものとする。なお、指定機械であることを識別するラベルが添付されているので、確認できるように撮影すること。</p> <table border="1" data-bbox="432 1487 1366 2047"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 1487 1150 1525">機 種</th> <th data-bbox="1155 1487 1366 1525">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 1532 1150 2047"> バックホウ トラクタショベル（車輪式） ブルトーザ 発動発電機（可搬式） 空気圧縮機（可搬式） 油圧ユニット類 以下に示す基礎用機械のうち、ベースマシンまたは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載するもの。 油圧ハンマ・パイプロハンマ・油圧式鋼管圧入引抜機 油圧式杭圧入引抜機・アースオーガ・オールケーシング掘削機械・リバースサーキュレーションドリル・アースドリル・地下連続壁施工機・全回転型オールケーシング掘削機 ローラ類（ロードローラ・タイヤローラ・振動ローラ） ホイールクレーン </td> <td data-bbox="1155 1532 1366 2047"> ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械を対象とする。 </td> </tr> </tbody> </table>	機 種	備 考	バックホウ トラクタショベル（車輪式） ブルトーザ 発動発電機（可搬式） 空気圧縮機（可搬式） 油圧ユニット類 以下に示す基礎用機械のうち、ベースマシンまたは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載するもの。 油圧ハンマ・パイプロハンマ・油圧式鋼管圧入引抜機 油圧式杭圧入引抜機・アースオーガ・オールケーシング掘削機械・リバースサーキュレーションドリル・アースドリル・地下連続壁施工機・全回転型オールケーシング掘削機 ローラ類（ロードローラ・タイヤローラ・振動ローラ） ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械を対象とする。
機 種	備 考				
バックホウ トラクタショベル（車輪式） ブルトーザ 発動発電機（可搬式） 空気圧縮機（可搬式） 油圧ユニット類 以下に示す基礎用機械のうち、ベースマシンまたは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載するもの。 油圧ハンマ・パイプロハンマ・油圧式鋼管圧入引抜機 油圧式杭圧入引抜機・アースオーガ・オールケーシング掘削機械・リバースサーキュレーションドリル・アースドリル・地下連続壁施工機・全回転型オールケーシング掘削機 ローラ類（ロードローラ・タイヤローラ・振動ローラ） ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械を対象とする。				

上越市発注建設工事における市内下請及び資材発注について

第1 下請発注について

請負者は、本建設工事の施工に当たり、工事の一部を下請企業に請け負わせて施工しようとする場合には、下請企業を上越市内企業の中から選定するよう努めるものとする。

第2 建設資材発注について

請負者は、本建設工事の施工に当たり、建設資材を発注しようとする場合には、納入企業を上越市内企業の中から選定するよう努めなければならない。

また、上越市産資材がある場合には、他に優先して使用するよう努めるものとする。

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
土工				
一次施工				
ボックス・樹				
1m以上2m未満 床堀	数量計算書P11	12.2	10m ³	
切梁・腹起し 障害なし 床堀	数量計算書P11	219.7	220m ³	
切梁・腹起し 障害あり 床堀	数量計算書P11	248.4	250m ³	
発生土 埋戻し	数量計算書P13	673.0	670m ³	
不足土	31-2工事残土流用 下水道センター仮置き 231.2+12.2+219.7+248.4-673.0/0.9=-36.3		他工事 流用予定	
土砂運搬・積込 仮置土不足土	下水道センター→現場 仮置き L=6.3km 数量計算書P4	231.2	230m ³	
二次施工				
床堀…本体部分 埋戻し…本体部分+仮排水路				
切梁・腹起し 障害なし 床堀	数量計算書P16	260.9	260m ³	
切梁・腹起し 障害あり 床堀	数量計算書P16	557.6	560m ³	

1

新潟県上越市

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
5m~20m 切梁 床堀	数量計算書P16	169.2	170m ³	
改良土 埋戻し	1m未満 数量計算書P5、P21	125.5+207.1=332.6	330m ³	
改良土 埋戻し・路床	4m以上 数量計算書P5、P21	67.4+73.3+120.7=261.4	260m ³	
埋戻し・路床	材料費	594.0/0.9=660.0	660m ³	
土砂運搬	現場→改良土センター L=5.1km	260.9+557.6=818.5	820m ³	
クラムシェル積込 土砂運搬	現場→改良土センター L=5.1km	169.2	170m ³	
土砂運搬	改良土センター→現場 L=5.1km	660.0	660m ³	
残土処分費		818.5+169.2-660.0=327.7	330m ³	
基面整正	数量計算書P17	166.53	170m ²	
基礎砕石	RC-40 t=200mm 数量計算書P17	166.53	167m ²	
基礎コンクリート	18-8-25(高炉)W/C≤60% 数量計算書P17	49.96	50m ³	
2500×2300 函渠工	現場打Box2500×2300 L= 9.0m			

2

新潟県上越市

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
函渠(1) 躯体コンクリート	24-12-25(高炉)W/C≦55% 数量計算書P23 9.0×4.77=42.93	43m ³		
鉄筋工	D13 数量計算書P23 9.0×0.145=1.31	1.31t		
鉄筋工	D16~D19 数量計算書P23 9.0×0.127=1.14	1.14t		
パネル設置	粗度改善 数量計算書P23及び別添図面より 2.5×11.50=28.75	29m ²		
M0既設人孔				
躯体コンクリート	24-12-25(高炉)W/C≦55% 数量計算書P32 3.99+0.56=4.55	5m ³		
型枠	数量計算書P32 11.77	12m ²		
残置型枠	数量計算書P32 1.60	2m ²		
鉄筋工	D13 数量計算書P32 0.069	0.07t		
鉄筋工	D16~D19 数量計算書P32 0.151	0.15t		
機械継手	D16 数量計算書P32 32	32箇所		
L=100 アンカー削孔φ16	D13 数量計算書P32 38	38箇所		

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
L=130 アンカー削孔φ20	D16 数量計算書P32 4	4箇所		
支保工	数量計算書P32 5.18	5空m ³		
M1特殊人孔				
人孔蓋	φ600 T-25 数量計算書P38 2	2枚		
調整金具	45mmまで 数量計算書P38 2	2組		
調整リングφ600	H=100 数量計算書P38 2	2個		
調整リングφ600	H=150 数量計算書P38 2	2個		
躯体コンクリート	24-12-25(高炉)W/C≦55% 数量計算書P38 115.33	115m ³		
円形型枠	数量計算書P38 2.26	2m ²		
型枠	数量計算書P38 180.94	181m ²		

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
残置型枠	数量計算書P38	68.97	69m ²	
鉄筋工	D13 数量計算書P38	2.069	2.07t	
鉄筋工	D16～D25 数量計算書P38	7.237	7.24t	
インパットコンクリート	18-8-25(高炉)W/C≤60% 数量計算書P38	6.37	6m ³	
モルタル上塗り工	数量計算書P38	32.34	32m ²	
支保工	数量計算書P38	123.92	120空m ³	
足掛金具設置	数量計算書P38	28	28本	
FRPM φ 2000				
設置	数量計算書P49			
FRPM φ 2000		6.40	6m	
材料費	数量計算書P49			
FRPM φ 2000	FRPM φ 2000 外圧2種 JSWA-S K2規格 直管 L=2000		1本	

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
FRPM φ 2000	数量計算書P49		1本	
FRPM φ 2000	FRPM φ 2000 外圧2種 JSWA-S K2規格 受口 L=3000調整切管			
FRPM φ 2000	数量計算書P49		1本	
FRPM φ 2000	FRPM φ 2000 外圧2種 JSWA-S K2規格 受口 L=1500			
標示シート	上記より	6.40	6m	
基礎砕石	数量計算書P49	19.58	20m ³	
閉塞コンクリート	24-12-25(高炉)W/C≤55% 数量計算書P49	5.50	6m ³	
型枠	数量計算書P49	14.6	15m ²	
残置型枠	数量計算書P49	14.4	14m ²	
鉄筋工	D13 数量計算書P49	0.041	0.04t	
鉄筋工	D16～D25 数量計算書P49	0.166	0.17t	
2400×2000 函渠工				
ボックスカルバート	数量計算書P55			
2400×2000		6.30	6m	
材料費	数量計算書P55			
2400×2000	斜切(短辺1265/長辺1867、短辺1398/長辺1715)		2個	

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計	変 更 設 計
材料費 2400×2000	数量計算書P55 短切(2400×2000×1100)	2 個
材料費 2400×2000	数量計算書P55 斜切(短辺871,中心1010,長辺1148)	1 個
型枠	数量計算書P55 5.25	5m2
防護コンクリート	18-8-25(高炉)W/C≤60% 数量計算書P55 0.64	1m3
アンカーD13	数量計算書P55 32本	1式
撤去工	既設RCボックス 2400×1600L=16.7m 既設RCボックス 2400×2000L=5.0m	
無筋コンクリート撤去	数量計算書P24 0.31×16.70+0.30×5.00+1.38=8.06	8m3
鉄筋コンクリート撤去	数量計算書P24 2.35×16.70+1.76×5.00+15.31=63.36	63m3
鉄筋コンクリート撤去	人力施工(M0既設人孔開口部) 数量計算書P32 1.26	1m3
鉄筋コンクリート撤去	機械施工(M0既設人孔開口部) 数量計算書P32 1.08	1m3

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計	変 更 設 計
地盤改良工		
スラリー攪拌工		
スラリー攪拌工	数量計算書P60 44.00	44本
スラリー攪拌工	数量計算書P60 58.00	58本
薬液注工		
④ 二重管ストレーナ工法	数量計算書P67 3.00	3本
⑤ 二重管ストレーナ工法	数量計算書P67 7.00	7本
⑥ 二重管ストレーナ工法	数量計算書P67 2.00	2本
⑨ 二重管ストレーナ工法	数量計算書P67 3.00	3本
⑩ 二重管ストレーナ工法	数量計算書P67 5.00	5本
⑬ 二重管ストレーナ工法	数量計算書P68 57.00	57本

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
付帯工				
舗装版切断	数量計算書P95 8.85	9m		
舗装版撤去	数量計算書P95 155.92	156m ²		
As殻運搬・処分	上記より 155.92×0.05=7.80	(18t) 8m ³		
下層路盤工	ARC-40 t=120mm 数量計算書P95 262.45	262m ²		
上層路盤工	M-25 t=100mm 数量計算書P95 262.45	262m ²		
表層工	⑤密粒度As20FH t=50mm 数量計算書P95 262.45	262m ²		
既設車止ポスト再設置	数量計算書P96 2.00	2本		
既設視線誘導標再設置	数量計算書P96 1.00	1本		
既設歩車道境界ブロック再設置	数量計算書P96 5.00	5m		
既設ガードレール再設置	数量計算書P96 10.30	10m		
PU300既設側溝再設置	数量計算書P96 15.60	16m		

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
仮設工				
仮排水路				
下流側				
復旧コンクリート	24-12-25(高炉)W/C≦55% 数量計算書P100 1.48	1m ³		
型枠	数量計算書P100 6.60	7m ²		
鉄筋工	D13 数量計算書P100 0.011	0.01t		
鉄筋工	D16~D25 数量計算書P100 0.054	0.05t		
機械継手	D13 数量計算書P100 28	28箇所		
機械継手	D16 数量計算書P100 10	10箇所		
機械継手	D19 数量計算書P100 16	16箇所		
上流側				
開口部閉塞 躯体コンクリート	24-12-25(高炉)W/C≦55% 数量計算書P104 1.97	2m ³		

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
型枠	数量計算書P104	5.78	6m2	
鉄筋工	D13 数量計算書P104	0.025	0.03t	
機械継手	D13 数量計算書P104	28	28箇所	
角落し設置	数量計算書P104		1式	
土留工				
鋼矢板				
ボックス・桝				
鋼矢板圧入	【IV型 圧入長L=15m以下 Nmax≤50】 圧入長L=12.4m P116,P125 25.00+42.00=67.00		67枚	
油圧式杭圧入引抜 機据付・解体	圧入 Nmax≤50 IV型	1.0	1回	
鋼矢板引抜	【III型 引抜長L=9m以下 Nmax≤25】 引抜長L=6.5m P111 49.0		49枚	
鋼矢板引抜	【IV型 引抜長L=15m以下 Nmax≤50】 引抜長L=12.5m P116、P125 26.00+45.00=71.00		71枚	
油圧式杭圧入引抜 機据付・解体	引抜 Nmax≤50 III型、IV型	1.0	1回	
充填工法併用 鋼矢板引抜	【III型 引抜長L=9m以下 Nmax≤25】 引抜長L=6.5m P111 40.0		40枚	

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
充填工法併用 鋼矢板引抜	【IV型 引抜長L=15m以下 Nmax≤50】 引抜長L=12.5m P116、125 25.00+29.00=54.00		54枚	
充填管設置	40÷6枚/本=6.6 III型 矢板長L=7.0m 充填長6.5m	6.6	7本	
充填管設置	54÷6枚/本=9.0 IV型 矢板長L=13.0m 充填長12.5m	9.0	9本	
引抜同時充填工	III型 矢板長L=7.0m 充填長6.5m	40.0	40枚	
引抜同時充填工	IV型 矢板長L=13.0m 充填長12.5m	54.0	54枚	
充填設備(車載型) 据付・解体		1.0	1現場	
特許技術料	7280+24300		31580L	
横矢板設置・撤去	数量計算書P126	14.20	14m2	
仮排水路				
153.2日 鋼矢板損料	【III型 矢板長L=7.0 Nmax≤25 標準作業】 31-2工事から引継ぎ 49.00+40.00=89.00		89枚	
153.2日 鋼矢板損料	【IV型 矢板長L=13.0 Nmax≤50 標準作業】 31-2工事から引継ぎ 26.00+45.00=71.00		71枚	
26.3日 軽量鋼矢板損料	数量計算書P119、136 0.439+0.322=0.761t		1式	

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
R2工事分	ボックス・桝			
161.6日	【IV型 矢板長L=13.0 Nmax≤50 標準作業】			
鋼矢板損料	25.00+29.00=54.00	54枚		
161.6日	【IV型 矢板長L=13.0 Nmax≤50 標準作業】 R3工事に引継ぎ予定			
鋼矢板損料	13.0	13枚		
一次施工				
仮排水路				
切梁腹起し・撤去	仮排水路 31-2工事より引継ぎ 数量計算書P113 7.250+1.595+0.290=9.135	9.1t		
119.7日	仮排水路 31-2工事より引継ぎ 数量計算書P113			
山留材質料	7.250	7.3t		
ボックス・桝				
切梁腹起し・設置撤去	ボックス 数量計算書P118 3.405+0.749+0.136=4.290	4.3t		
切梁腹起し・設置撤去	M1特殊人孔 数量計算書P129 12.637+2.780+0.505=15.922	15.9t		
107.7日	ボックス・M1特殊人孔 (2回使用) 二次掘削終了後まで使用			
山留材質料	3.405+12.637=16.042	16.0t		

13

新潟県上越市

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
二次施工				
切梁腹起し・設置撤去	ボックス・M1特殊人孔 (1段目) P121、133 3.405+0.749+0.136+12.637+2.780+0.505=20.212	20.2t		
切梁腹起し・設置撤去	ボックス・M1特殊人孔 (2段目) P121,133 4.388+0.965+0.176+13.022+2.865+0.521=21.937	21.9t		
山留材質料	ボックス・M1特殊人孔 (1段目) 上記計上済 3.405+12.637=16.042=0.000	0.0t		
26.0日	ボックス・M1特殊人孔 (2段目、基礎Co打設後撤去)			
山留材質料	4.388+13.022=17.410	17.4t		
スクラップ	上記より 副部材(B)合計 0.136+0.176+0.505+0.521+0.290=1.628	1.6t		
既設2000×2000				
仮排水路				
φ1200	数量計算書P98、P136			
コルゲートパイプ(1型)	6.0	6m		
153.2日	H200×200、H250*250 数量計算書P98、P136			
架台損料	1.195	1.2t		
開削水替工				
ポンプ運転	数量計算書P140 1.2	2日		

14

新潟県上越市

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
ポンプ据付撤去	仮排水路 切替時	1箇所		
設備工				
薬注(車上)注入設備据付・解体		1.0	1現場	
交通誘導員				
交通誘導員B	日中 交代要員なし 数量計算書P139,140 $109.9 \approx 110.0 \times 2 \times 1.0 = 220.0$		220.0人	
仮設材運搬				
製品長L=12m以内 搬入	数量計算書P135	42.772	42.8t	
製品長L=12mを超え15m以内 搬入	数量計算書P135	66.283	66.3t	
積込み・取卸し	数量計算書P135	109.055	109.1t	
取卸し	数量計算書P135	1.338	1.3t	

計 算 総 括 表

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り、積算のための参考数量である。

名 称	実 施 ・ 元 設 計		変 更 設 計	
製品長L=12m以内 搬出	数量計算書P135	90.625	90.6t	
製品長L=12mを超え15m以内 搬入	数量計算書P135	123.662	123.7t	
積込み・取卸し	数量計算書P135	214.287	214.3t	
事業損失防止施設費				
家屋調査 準備打合せ		1.0	1業務	
事前調査	木造建物A 130m2以上200m2未満	1.0	1軒	
技術管理費				
事前調査 スラリー攪拌工法		1.0	1式	
事後調査 スラリー攪拌工法		1.0	1式	

1 土工

土工:仮水路

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
<p>仮水路</p>		

土工:仮水路

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
仮水路	<p style="text-align: center;"><u>標準施工断面図</u></p> <p style="text-align: center;">既設□2400×1600</p> <p style="text-align: center;">基礎砕石厚 200 基礎C0厚 100</p> <p style="text-align: center;">平均掘削深3.663</p> <p style="text-align: center;">地盤高 +8.51</p> <p style="text-align: center;">地盤高 +8.51~+8.34</p> <p style="text-align: center;">下流側管底高~上流側管底高 ▽+5.043~▽+5.082</p> <p style="text-align: center;">立坑深 3780</p> <p style="text-align: center;">2780 1段目 1000</p> <p style="text-align: center;">▽+4.730</p> <p style="text-align: center;">+5.090</p> <p style="text-align: center;">▽+5.043</p> <p style="text-align: center;">170 1450 125</p> <p style="text-align: center;">1745</p> <p style="text-align: center;">170 4500 170</p> <p style="text-align: center;">4840</p>	

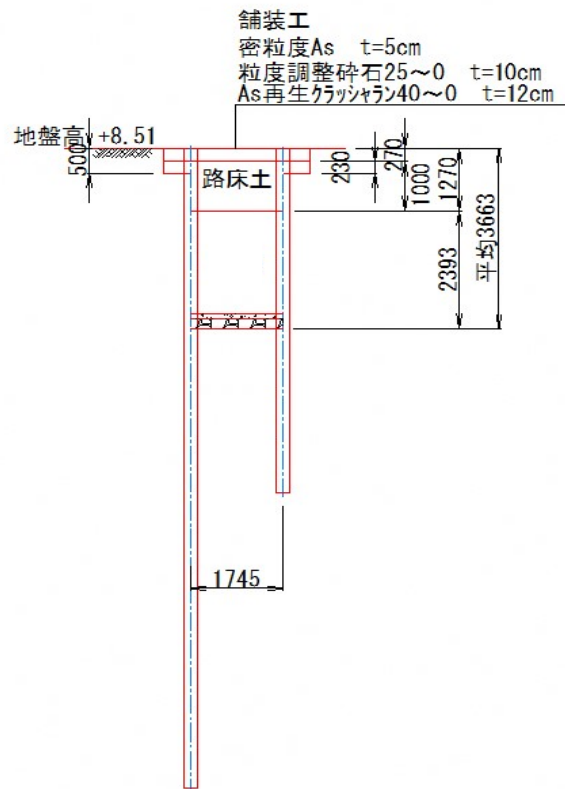
土工:仮水路

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
仮水路工 土工		
1.布掘り	床掘(布掘り部) 平均施工幅 1m以上2m未満 参考図よりCAD計測 (35.63 + 28.80) × (0.500 - 0.050) = 28.99	29.0 m ³
2.掘削工	床掘 標準 無し (1段目梁設置時) 27.77 × (0.500 - 0.050) = 12.50 (L1+L2) × 幅 × 高さ (19.281 + 12.851) × 1.745 × 1.300 = 72.89 (L3) × 幅 × 高さ 1.050 × 3.720 × 1.300 = 5.08 <hr/> 90.47	90.5 m ³
3.残土処分工	床掘 標準 切梁腹起式 (L1+L2) × 幅 × 高さ (19.281 + 12.851) × 1.745 × (3.663 - 1.800) = 104.46 (L3) × 幅 × 高さ 1.050 × 3.720 × (3.663 - 1.800) = 7.28 <hr/> 111.74 ※掘削深平均 3.663 m	111.7 m ³
下水道センター仮置き(31-2工事) 土砂運搬工(1次掘削完了後の埋戻し材として使用)		
29.0 + 90.5 + 111.7		231.2 m ³

土工:仮水路

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量	
4.埋戻	改良土		
	$(19.281 + 12.851) \times 1.745 \times (3.663 - 1.270)$	= 134.18	
	$1.050 \times 3.720 \times (3.663 - 1.270)$	= 9.35	
	控除		
	基礎碎石・コンクリート		
	$(19.281 + 12.851) \times 1.745 \times 0.300$	= -16.82	
	$1.050 \times 3.720 \times 0.300$	= -1.17	
		<hr/> 125.54	125.5 m ³
	路床土		
	$(19.281 + 12.851) \times 1.745 \times 0.770$	= 43.17	
$1.050 \times 3.720 \times 0.770$	= 3.01		
参考図よりCAD計測			
$(35.63 + 28.80 + 27.77) \times (0.500 - 0.270)$	= 21.21		
	<hr/> 67.39	67.4 m ³	

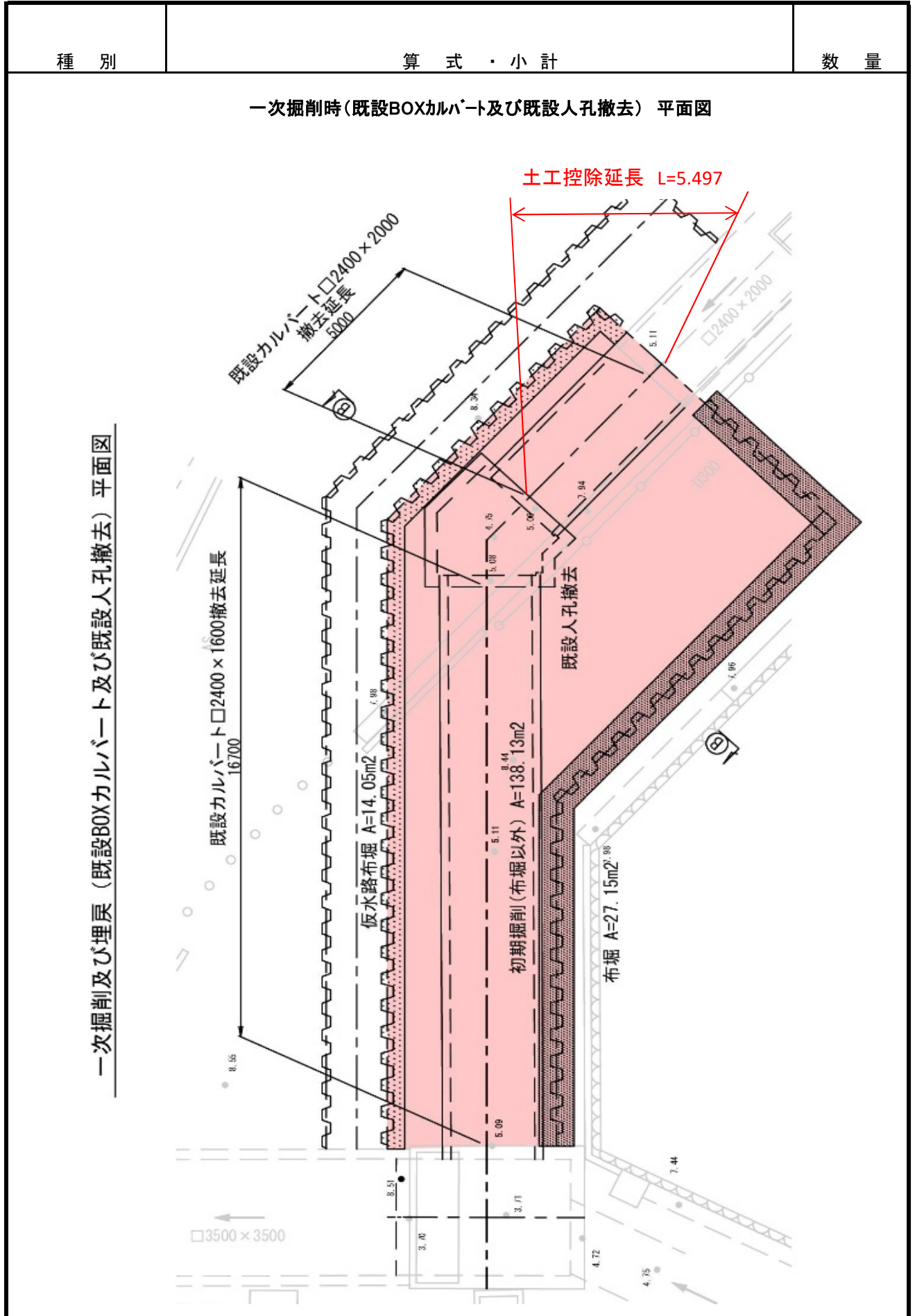
埋戻工標準断面図



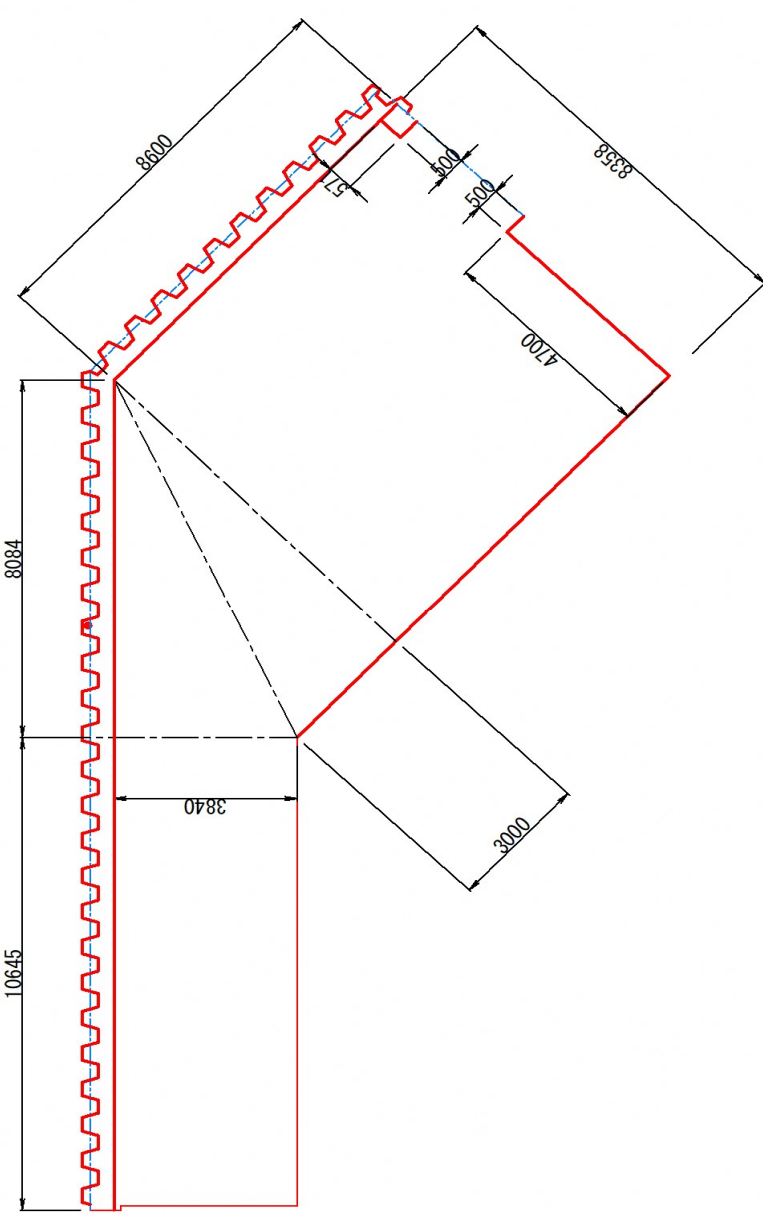
土工:仮水路

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量	
5.基礎コンクリート	31-2工事で施工済		
	基礎コンクリート		
	$(19.281 + 12.851) \times 1.745 \times 0.100$	= 5.607	
	$1.050 \times 3.720 \times 0.100$	= 0.391	m³
	<hr/>	<hr/>	<hr/>
	5.998	6.00	m ³
基礎砕石 RC-40 t-20cm			
$(19.281 + 12.851) \times 1.745$	= 56.070		
1.050×3.720	= 3.906	m³	
<hr/>	<hr/>	<hr/>	
59.976	59.98	m ³	

土工:一次掘削



土工:一次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
<p>一次掘削時(既設BOXカルハート及び既設人孔撤去) 平面面積図</p>  <p>初期掘削面積(布堀り以外)</p> $10.645 \times 3.840 \times (3.840 \times 8.084) / 2 + (3.000 \times 8.358) / 2 + 8.358 \times 8.600 - 4.700 \times 0.500 - 0.571 \times 0.500$ $= 138.18 \text{ m}^2$		

土工:一次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
一次掘削時(既設BOXカルハート及び既設人孔撤去) 平面面積図		
ボックス部面積	10.445×4.840	= 50.55 m ²
人孔部面積	$(4.840 \times 8.484) / 2 + (2.800 \times 9.358) / 2 + 9.358 \times 8.800$	= 115.98 m ²

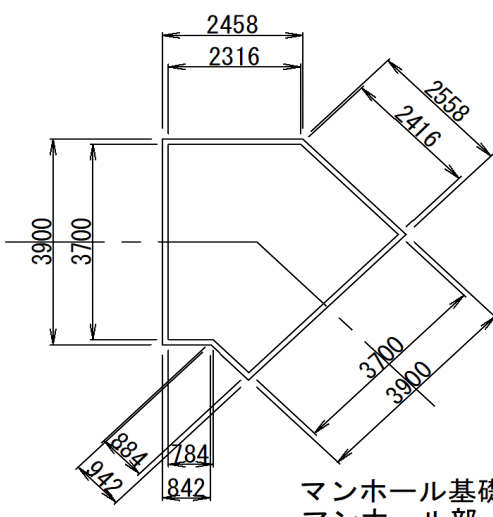
土工:一次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
<p style="text-align: center;">一次掘削時(既設BOXカルバト部)</p> <p style="text-align: center;">標準断面図</p> <p style="text-align: center;">一次掘削時(既設マンホール部)</p> <p style="text-align: center;">㊦-㊦ 断面図 (既設人孔撤去)</p>		

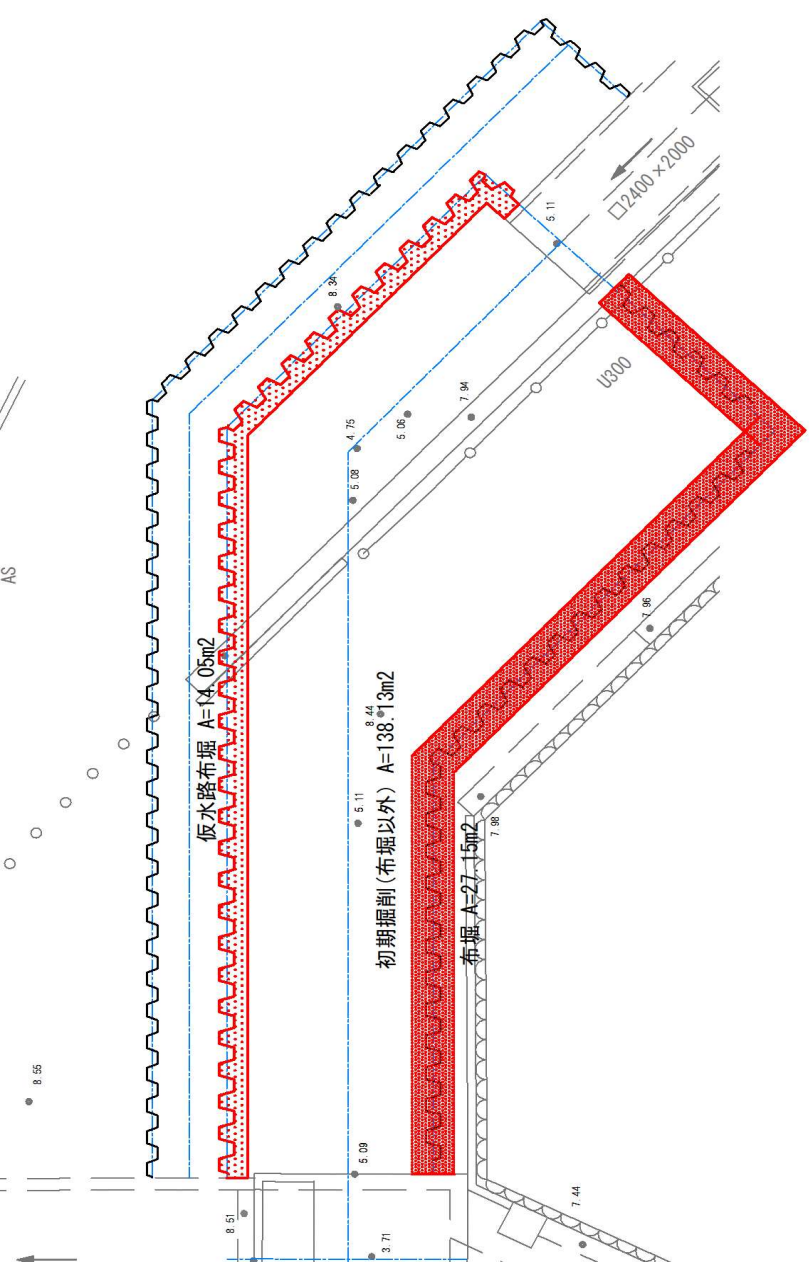
土工:一次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
(一次掘削:既設ボックス及び既設人孔撤去時)		
1.布掘り	・床堀 平均施工幅 1m以上2m未満 $27.15 \times (0.500 - 0.050) = 12.22$ (ボックス部+人孔部)	12.2 m ³
2.掘削工	・床堀 切梁・腹起し 障害なし $138.18 \times (0.500 - 0.050) = 62.18$ (ボックス部+人孔部) H=2.0-0.5 $50.55 \times 1.500 = 75.83$ (ボックス部) H=1.5-0.5 $115.98 \times 1.000 = 115.98$ (人孔部) 控除 下流部既設BOX $2.880 \times 0.440 \times 16.807 = -21.30$ 上流部既設BOX $2.720 \times 0.320 \times 5.497 = -4.78$ 人孔 $11.84 \times 0.690 = -8.17$ <hr/> 219.74	219.7 m ³
	・床堀 切梁・腹起し 障害あり $115.98 \times (4.160 - 1.500) = 308.51$ (人孔部) $50.55 \times (3.780 - 2.000) = 89.98$ (ボックス部) 控除 下流部既設BOX $2.880 \times 1.680 \times 16.807 = -81.32$ $3.080 \times 0.100 \times 16.807 = -5.18$ 上流部既設BOX $2.720 \times 2.140 \times 5.497 = -32.00$ 人孔 $11.84 \times 2.560 = -30.31$ $13.26 \times 0.100 = -1.33$ <hr/> 248.35	248.4 m ³

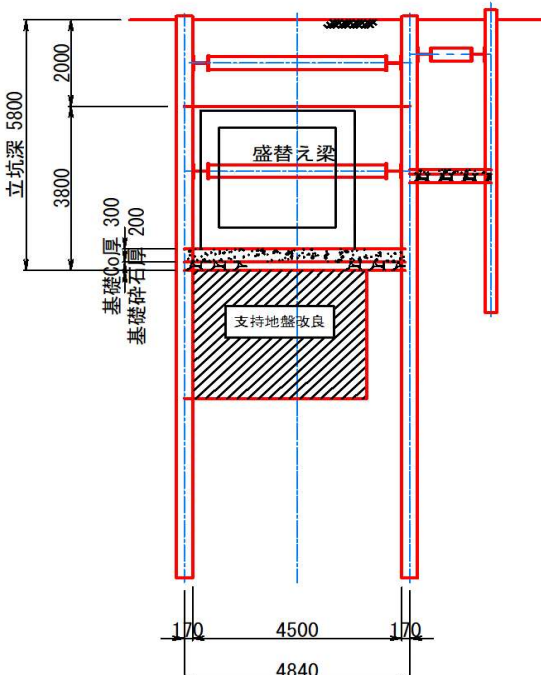
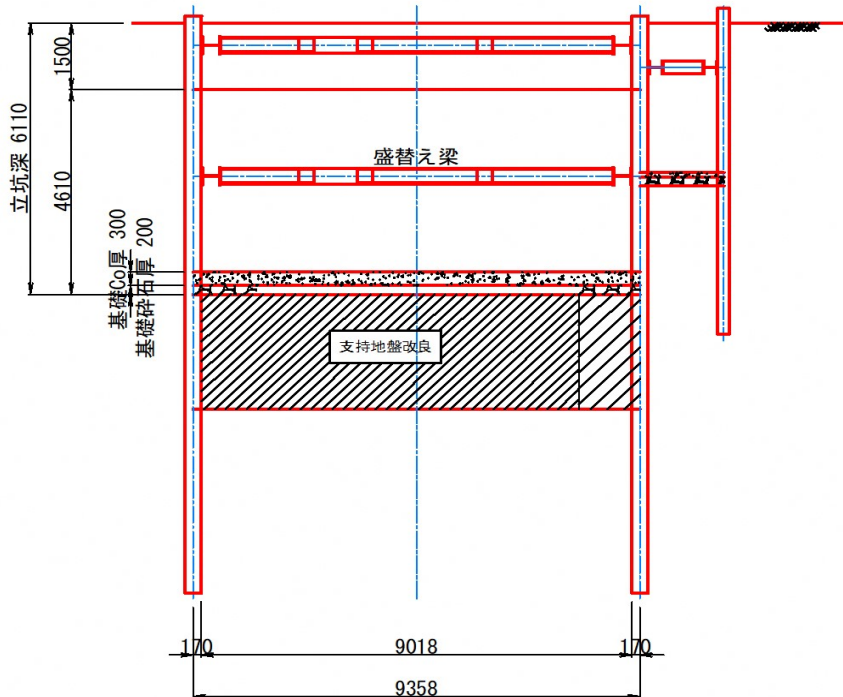
土工:一次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
3.残土処分工	<p>既設人孔部 面積(CAD計測)</p>  <p>マンホール基礎部 A=13.26m² マンホール部 A=11.84m²</p> <p>・バックホウ 12.2 + 219.7 + 248.4 = 480.30</p>	480.3 m ³

土工:一次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
11.埋戻	 <p>マンホール部 $115.98 \times (4.160 - 0.500) = 424.49$</p> <p>ボックス部 $50.55 \times (3.780 - 0.500) = 165.80$</p> <p>布掘り部 $27.15 \times 0.500 = 13.58$</p> <p>布掘りその他 $138.18 \times 0.500 = 69.09$</p> <hr/> <p style="text-align: right;">672.96</p>	<p style="text-align: right;">673.0 ^{m³}</p>

土工:二次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
掘削	<p style="text-align: center;">現場打ちボックスカルバート部</p> <p style="text-align: center;"><u>断面図</u></p>  <p style="text-align: center;">M1特殊人孔部</p> <p style="text-align: center;"><u>断面図</u></p> 	

土工:二次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量	
(二次) 1.掘削工	現場打ち開削部及びM1特殊マンホール部		
	(1段目梁設置時)		
	・床堀 切梁・腹起し 障害なし		
	138.13×0.500 (人孔部+ボックス部)	$= 69.07$	
	$115.98 \times (1.500 - 0.500)$ (人孔部)	$= 115.98$	
	$50.55 \times (2.000 - 0.500)$ (ボックス部)	$= 75.83$	
		<hr/> 260.88	260.9 m ³
	・床堀 切梁・腹起し 障害あり		
	$115.98 \times (5.000 - 1.500)$	$= 405.93$	
	$50.55 \times (5.000 - 2.000)$	$= 151.65$	557.6 m ³
	<hr/> 557.58		
2.残土処分工	・床堀 掘削深さ5m超20m以下 切梁・腹起し 障害あり		
	$115.98 \times (6.110 - 5.000)$	$= 128.74$	
	$50.55 \times (5.800 - 5.000)$	$= 40.44$	169.2 m ³
		<hr/> 169.18	
	・バックホウ $260.9 + 557.6$	$= 818.50$	818.5 m ³
	・クラムシェル	$= 169.20$	169.2 m ³

土工:二次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
3.基礎工	・基礎コンクリート	
	マンホール部	
	BOX部	
	$115.98 \times 0.300 = 34.794$	
	$50.55 \times 0.300 = 15.165$	
	$\frac{49.959}{49.959}$	49.96 m ³
	・基礎碎石 t=20cm	
	マンホール部	
BOX部		
$= 115.980$		
$= 50.550$		
$\frac{166.530}{166.530}$	166.53 m ²	

土工:二次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
埋戻	<p style="text-align: center;">現場打ちボックスカルバート部</p> <p style="text-align: center;"><u>断面図</u></p> <p style="text-align: center;">M1特殊マンホール部</p> <p style="text-align: center;"><u>断面図</u></p>	

土工:二次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量
<div data-bbox="375 398 1348 1137"> <p style="text-align: right;">平面図</p> </div> <div data-bbox="858 1384 976 1415" style="text-align: center;"> <p>断面図</p> </div> <div data-bbox="646 1467 1093 1848"> </div>		

土工:二次掘削

種 別	算 式 ・ 小 計	数 量	
4.埋戻	改良土		
	50.55 × 3.700 = 187.04 (ボックス部) P18断面図(3.200+0.3+0.2)		
	50.55 × 0.830 = 41.96 (ボックス部)埋戻し幅4m以上 P18断面図(4.53-3.70)		
	115.98 × 4.840 - 31.31 = 530.03 (人孔部)		
	4.00 × 5.439 × 1.439 = 31.31 (FRPM管上部)埋戻し幅4m以上 P18、P19図面		
	控除		
	基礎		
	50.55 × 0.500 = -25.28 (ボックス部)		
	基礎		
	115.98 × 0.500 = -57.99 (人孔部)		
	新設BOX(□2500×2300)躯体		
	3.647 × 3.200 × 10.500 = -122.54		
	M1マンホール躯体		
	49.150 × 4.340 = -213.31		
	FRPM管基床部		
	3.600 × 1.169 × 5.439 = -22.89		
	($\pi/4 \times 2.080^2 \times (90^\circ / 360^\circ) - 0.735 \times 0.735$) × 5.439 = 1.68		
	-21.21		
	FRPM管φ2000		
	$\pi/4 \times 2.080^2 \times 5.439 = -18.48$		
	新設BOX(□2400×2000)躯体		
	2.760 × 2.310 × 5.516 = -35.17		
	新設BOX(□2400×2000)基礎		
	2.960 × 0.350 × 5.716 = -5.92		
	新設BOX(□2400×2000)防護		
	3.160 × 2.310 × 0.400 = -2.92		
	FRPM管閉塞		
	3.600 × 0.500 × 4.000 = -7.20		
	280.32	280.3	
	埋戻し幅 1m未満	207.05	207.1
	埋戻し幅 4m以上 41.96+31.31 = 73.27	73.3	
	路床土		
	50.55 × 0.770 = 38.92 (ボックス部)		
115.98 × 0.770 = 89.30 (人孔部)			
27.15 × 0.230 = 6.24 (ボックス部+人孔部布掘り)			
131.83 × 0.230 = 30.32 (ボックス部+人孔部布掘り以外)			
控除			
M1人孔			
49.15 × 0.864 = -42.47			
新設BOX(□2400×2000)躯体			
2.760 × 0.080 × 5.516 = -1.22			
新設BOX(□2400×2000)防護			
3.160 × 0.280 × 0.400 = -0.35			
120.74	120.7		

2 函渠工

現場打ち (W2500×H2300)

◆ ボックス2500×2300布設工 材料積算集計表

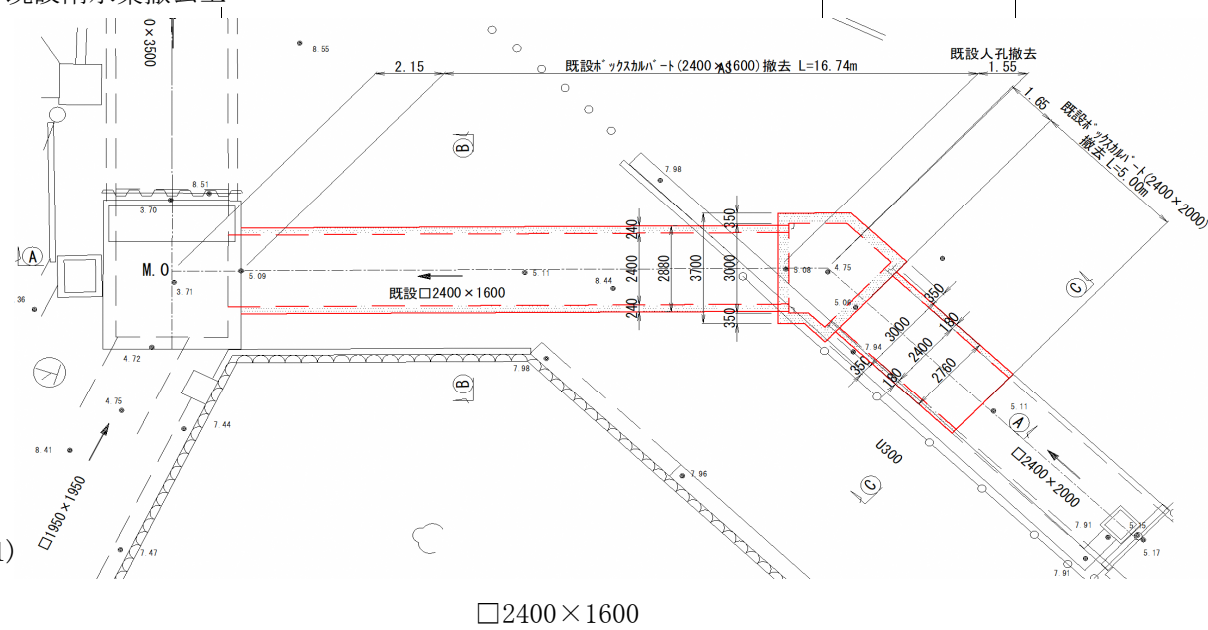
名 称	細 別・規 格・寸 法	単 位	数 量	摘 要
現場打ボックス布設工	区間距離	m	14.2	
現場打□2500×2300	布設延長	m	9.0	(片側土留矢板残置型枠併用)
1 m 当 り 材 料	躯体コンクリート工(24-12-25 BB)	m ³	4.77	
	型 枠 工 (鉄筋構造物)	m ²	10.34	
	残置型枠	m ²	3.20	(鋼矢板引抜可工法)
	鉄 筋 工 (SD345 D13)	t	0.145	
	鉄 筋 工 (SD345 D16)	t	0.099	
	鉄 筋 工 (SD345 D19)	t	0.028	
	鉄 筋 工 (D16~D19) 計	t	0.127	
	鉄 筋 工 合 計	t	0.272	
	砂充填工	m ³	0.52	
	基礎砕石工 RC-40 厚さ t=20cm	m ²	-	仮設工で計上
	基礎コンクリート工 厚さt=30cm 普通 18-8-40 BB	m ³	-	仮設工で計上
	支保工	空m ³	5.75	
	FRPM版取付工	m ²	2.50	1.242m×1.0m×t8mm
	緩衝材 独立発泡体(20倍) t=10mm	m ²	2.75	ロス率10%を含む 1.0×1.1
	皿ボルト+インサート SUS304 M8×60L	本	12.60	ロス率5%を含む 12.0×1.05
目地シーリング工	m	5.64	mあたり割り戻し延長	

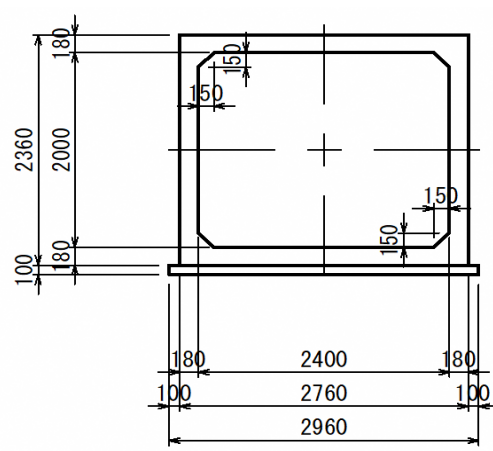
◆ ボックス2500×2300布設工 材料積算集計表

名 称	細 別・規 格・寸 法	単 位	数 量	摘 要
既設雨水路撤去工	RCボックス2400×1600撤去延長	m	16.7	
1 m 当り材料	鉄筋コンクリート取壊し工	m ³	2.35	
	無筋コンクリート取壊し工	m ³	0.31	
	鉄筋コンクリート殻処分工	m ³	2.35	
	無筋コンクリート殻処分工	m ³	0.31	
	コンクリート殻処分工 合計	m ³	2.66	
既設雨水路撤去工	PCボックス2400×2000撤去延長	m	5.0	
1 m 当り材料	鉄筋コンクリート取壊し工	m ³	1.76	
	無筋コンクリート取壊し工	m ³	0.30	
	鉄筋コンクリート殻処分工	m ³	1.76	
	無筋コンクリート殻処分工	m ³	0.30	
	コンクリート殻処分工 合計	m ³	2.06	
既設雨水柵撤去工	既設取付柵撤去工	個所	1	
	鉄筋コンクリート取壊し工	m ³	15.31	
	無筋コンクリート取壊し工	m ³	1.38	
	鉄筋コンクリート殻処分工	m ³	15.31	
	無筋コンクリート殻処分工	m ³	1.38	
	コンクリート殻処分工 合計	m ³	16.69	

名称	算式	式	数量
<p>現場打口2500×2300布設工</p> <p style="text-align: center;"><u>現場打ボックス(2500×2300)布設工</u></p>			
1. 区間距離	現場打ボックスカルバート 2500×2300	= 14.20 m	= 14.20 m
2. ボックス布設延長	= 14.20 - (1.75 + 0.400 + 0.500) - (1.00 + 0.60 + 0.95)	= 9.00 m	= 9.0 m
3. 1m当り材料	(片側土留矢板残置型枠併用)		
1)鉄筋コンクリート工	(24-12-25 BB)		
	(3.300×3.200-2.500×2.318)×1.0	= 4.77 m ³	
2)型枠工			
鉄筋構造物	{(2.500+2.318×2)+3.200}×1.0	= 10.34 m ²	
残置型枠	3.200×1.0	= 3.20 m ²	
(鋼矢板引抜可工法)			

名 称	算 式	数 量
3)鉄筋工	ボックス2500×2300配筋図参照 SD345 D13mm以下 =	145 kg = 0.145 t
	D16mm =	99 kg = 0.099 t
	D19mm =	28 kg = 0.028 t
	合 計	= 0.272 t
3)砂充填工	$0.162 \times 3.200 \times 1.0$	= 0.52 m^3
5)基礎工	(片側土留矢板残置型枠併用)	
基礎碎石	(RC-40 厚0.200m)	
	仮設工で計上	= - m^2 = - m^2
基礎コンクリート工	(18-8-40 厚0.300m)	
	仮設工で計上	= - m^3 = - m^3
5)支保工	躯体内側面積 $2.50 \times 2.3 \times 1.0$	= 5.75 空m^3 = 5.75 m^3
6)FRPM版取り付け工 (底面粗度改善)	$2.50 \times (0.40+0.50+9.00+1.00+0.60)$ (L=11.50m)	= 28.75 m^2 = 28.8 m^2
FRPM版(底板部)	$1.242\text{m} \times 1.0\text{m} \times \text{t}8\text{mm}$ $28.8 \div 11.5$	= $2.5 \text{ m}^2/\text{m}$ = $2.5 \text{ m}^2/\text{m}$
緩衝材	独立発泡体(20倍) t=10mm=28.8m ² $28.8 \div 11.5 \times 1.1$	= 2.75 m^2 = $2.8 \text{ m}^2/\text{m当}$
皿ボルト+インサート	SUS304 M8×60L 276本使用(図面より) $280 \text{本} \div 11.5 \times 1.05$	= 25.5 本 = 25.5 本/m当
6)目地シーリング工	幅方向 $2.50\text{m} \times 11\text{箇所}=32.50\text{m}$ 延長方向 $11.50\text{m} \times 3\text{箇所}=34.50\text{m}$ 計62.00m 材料は目地材 5m/本の使用 $62.0 \div 11.5\text{m}=5.64\text{m}/\text{m当}$	5.64 m = 5.64 m
7)端部処理工	水中ボンド(6kg) 端部2箇所分	1.0 本 = 1.0 本

名称	算式	式	数量
<p>4. 既設雨水渠撤去工</p> 			
<p>a. 撤去延長</p>	<p>RCボックスカルバート 2400×1600</p>	<p>= 16.74 m</p>	<p>= 16.7 m</p>
<p>b. 1m当り撤去工</p>	<p>コンクリート取壊し工 (鉄筋コンクリート)</p>	<p>$(2.880 \times 2.120 - 2.400 \times 1.600 + 0.200^2 \times 1/2 \times 4) \times 1.0$</p>	<p>= 2.35 m³</p>
<p>コンクリート取壊し工 (無筋コンクリート)</p>	<p>3.080 × 0.100 × 1.0</p>	<p>=</p>	<p>0.31 m³</p>
<p>コンクリート殻処分工 (鉄筋コンクリート)</p>	<p>(鉄筋コンクリート)</p>	<p>=</p>	<p>2.35 m³</p>
<p>(無筋コンクリート)</p>	<p>(無筋コンクリート)</p>	<p>=</p>	<p>0.31 m³</p>
	<p>計</p>	<p>=</p>	<p>2.66 m³</p>

名 称	算 式	数	量
	<p style="text-align: center;">□2400×2000</p> 		
a. 撤去延長	PCボックスカルバート 2400×2000	= 5.00 m	= 5.0 m
b. 1m当り撤去工			
コンクリート取壊し工	(鉄筋コンクリート) $(2.760 \times 2.360 - 2.400 \times 2.000 + 0.150^2 \times 1/2 \times 4) \times 1.0$ = 1.76 m ³ (無筋コンクリート) $2.960 \times 0.100 \times 1.0$ = 0.30 m ³		
コンクリート殻処分工	(鉄筋コンクリート) = 1.76 m ³ (無筋コンクリート) = 0.30 m ³ 計 = 2.06 m ³		

名称	算式	式	数量
b. コンクリート取壊し工			
(鉄筋コンクリート)			
頂版	$\{(2.316+0.784) \times 3.700 \times 1/2 + (2.416+0.884) \times 3.700 \times 1/2\} \times 0.350$	=	4.14 m ³
側壁	$\{(2.316+0.784) \times 3.700 \times 1/2 + (2.416+0.884) \times 3.700 \times 1/2\} \times 2.500$	=	29.60 m ³
※控除 (側壁内空)	$\{(1.821+0.579) \times 3.000 \times 1/2 + (1.921+0.679) \times 3.000 \times 1/2\} \times 2.500$	=	-18.75 m ³
(□2400×1600)	2.880×2.120×0.350	=	-2.14 m ³
(□2400×2000)	2.760×2.360×0.350	=	-2.28 m ³
底版	$\{(2.316+0.784) \times 3.700 \times 1/2 + (2.416+0.884) \times 3.700 \times 1/2\} \times 0.400$	=	4.74 m ³
			計 = 15.31 m ³
(無筋コンクリート) 基礎	$\{(2.457+1.029) \times 3.900 \times 1/2 + (2.557+1.029) \times 3.900 \times 1/2\} \times 0.100$	=	1.38 m ³ = 1.38 m ³
c. コンクリート殻処分工			
(鉄筋コンクリート)		=	15.31 m ³
(無筋コンクリート)		=	1.38 m ³
			計 = 16.69 m ³

3 M0 既設人孔